

令和 8 年度

総合型選抜 I 期 問題 課題作文

試験開始までに下記の注意事項をよく読んでください。

試験時の注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- ② 受験票に記載された学科と解答する学科に相違がないか、確認すること。
また、健康栄養学科・看護学科・理学療法学科の受験者は、受験票に記載された科目と問題冊子に相違がないか確認すること。異なる場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- ③ 開始の合図の後、解答用紙に「氏名」、「受験番号」を記入すること。受験番号は算用数字で記入すること。
- ④ 試験時間は、60 分です。
- ⑤ 解答用紙は横書きで記入すること。
- ⑥ 句読点は 1 字として数えること。
- ⑦ 下書きは、問題用紙の余白・裏面を使用すること。
- ⑧ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- ⑨ 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。

次の文章は、児童精神科医の宮口幸治と小学校教諭の田中繁富によるものです。これを読んで、後の設問に答えてください。

新学期になってしばらくすると保護者から「ついていくのがしんどいみたいです」という相談が寄せられます。保護者の中には自分の子どもに問題があるのではなく、新しい先生の教え方が下手なのではと持っていることもありますし、教師側は子どもに問題があるのではと考えてしまうこともあるでしょう。これらの問題以外にも学習カリキュラムと子どもの発達スピードとのズレに問題があることもあります。

子どもの発達はどの領域もまんべんなく同じスピードで進むわけではありません。小学校入学時点で同じでも最初はゆっくり進み後でスピードアップする子もいれば、最初は早く、その後ゆっくり進む子もいます。発達検査や知能検査の結果の推移などを見ても毎回ピタリと同じ数字になっていることはほぼありません。もちろん測定誤差もありますが、それ以上に子どもたちの発達には多かれ少なかれ凸凹（おうとつ）があって、それらが複雑に変動しつつ成長しているのが分かります。小学校で成績がよくなくても中学校で急にトップ近くになったりする子もいますし、逆に小学校で天才と呼ばれていた子が中学校に進むと普通の成績だったりします。また計算が苦手だった子が急にできるようになったり、作文が苦手だった子が後に作文コンクールで優秀賞をとったりするなど、子どもの成績や発達はバラエティに富んでいるのです。

一方で学習カリキュラムは子どもが平均的に順調に発達することを前提に作られています。もしその子の発達が定型発達から少しでも遅れるとカリキュラムの進度に合わなくなり、次第についていきにくくなるのです。子どもの知的能力が平均的な範囲にあれば、遅かれ早かれ結果的にはみんなと同じ地点に到達するのですが、それまでの間、一時的に「ついていくのがしんどい」原因の一つになるのです。

〈中略〉

それに「今まで全然分からなかったのに、学習を続けているうちにある日突然分かった」「全体像がつかめると初めて細部の理解が進んだ」ということもよくあります。低学年のときに平仮名の習得が難しかった子が、高学年になったとき普通にテストで高得点がとれるようになってきているケースなども実際にありました。子どもにはさまざまな成長の仕方や学び方がありますので、現時点で、ついていけないことを必要以上に嘆くよりも、あきらめずに頑張る子どもの粘り強さを見守り続けることが、子どもの目的を支える大人の役割と思います。

(出典：宮口幸治・田中繁富『「頑張れない」子をどう導くか』ちくま新書、2025年)

設問1 文中の下線部「子どもにはさまざまな成長の仕方や学び方がありますので、現時点で、ついていけないことを必要以上に嘆くよりも、あきらめずに頑張る子どもの粘り強さを見守り続けることが、子どもの目的を支える大人の役割と思います」について、あなたの考えを述べてください。本文を引用する場合は、必ず引用箇所を「 」で示してください。(300字以内)

設問2 あなたはどのようなことを大事にする保育者・教育者になりたいですか。文章を読んだうえで考えたことを述べてください。(500字以内)

〈留意事項〉

必要に応じて段落分けをし、読みやすいようにしてください。